

平成29年度  
事業報告書

社会福祉法人スキーム福祉の会

# 平成29年度事業報告書

## I. 総括

当施設も開設20年となりました。5月には開設20周年を祝う式典を開催し、あらためて今までを振り返ると共に今後の施設の発展と質の向上に向けて気持ちを新たにしましたところであります。

平成29年度については、指示・命令系統を充実させるべく組織内編成を行いました。入所部門においては、従来型、ユニット型とそれぞれに管理者を配置し、管理者を中心にそれぞれの部署の抱える課題、役割の明確化及びその役割に伴う勉強会を実施し、職員の資質向上に向けて取り組みました。また、介護事故を未然に防ぐ取組みとして生活相談員を中心にヒヤリハット報告書の改善を行い、他職種協働で重大事故の予防に努めました。その甲斐あり、骨折等の事故はありましたが、長期入院の減少、感染症発生・蔓延の防止が図られ、稼働率としては、従来型では昨年度よりも+2.7%、ユニット型では+0.1%とともに昨年度を上回る稼働率を確保することが出来ました。また、短期入所生活介護においても、担当ケアマネジャーとの連携を密にし、細目に情報を提供するなどして信頼関係を構築した結果、こちらについても昨年度と比べて+6.3%と大きく昨年度を上回る結果となりました。しかし、在宅部門のデイサービスセンターについては、昨年度から総社市でスタートした日常生活総合支援事業の影響もあり、要支援者の利用が減少したことと、重度者の入院が相次ぎ、昨年度よりも稼働率が-4.9%と大きく下がる結果となってしまいました。デイサービスセンターについては、今年度から介護報酬が大きく下げられたこともあり、今後の対策について検討する必要があります。

次に平成29年度の重点取組みについて報告します。

### 1. サービスの質の向上

介護保険制度の理念でもあります自立支援に向けて、特養部門では、他職種で共同した援助が行えるよう、申し送りフォルダを新規作成し、より詳細にご利用者の情報共有が行えるようにしました。また、各ユニットで勉強会を実施し、その部門におけるサービス課題の克服を行いました。

在宅部門でも毎月ロールプレイング形式の勉強会を実施し、職員の質の向上を図るとともに、あらためてご利用者のアセスメントを詳細に行い、ニーズや状態に沿ったサービス提供が行えるようにしました。

### 2. 組織の活性化

組織の活性化については、入所部門・通所部門と各部門に役職者を配置し、より上層部からの指示・命令伝達が確実に実行できるようするとともに現場からの意見に対応がしやすい体制を整えました。

### 3. 人材の育成

今年度も施設外研修に積極的に参加を促し、参加率は昨年度の約2倍になっています。また、管理職員の育成を図るべく7月から北摂演出研究所の森下信雄氏をコンサルタントとして招き、毎月課長以上の経営層に対し、個人コンサルティング及び全体ミーティングを実施しました。組織の課題、今後の改善点等を話し合い、コンサルタントの意見も交えながら施設の取組み等を検討・実施するなど、管理職の育成を図っています。

### 4. リスクマネジメント

今年度はヒヤリハット報告書の活用に力を注ぎ、大きな事故を未然に防ぐための取組みを行いました。どんなに小さな事案でも報告書を上げて対策が必要なもの、そうでないものに仕分け、各部

門で細目に対応できるシステムを構築しました。この取組みについては県の研究発表大会でも発表し、高評価を頂きました。

## 5. 法令遵守

施設内研修にて職員全員に周知しました。また、今年度は介護・育児休業の法改正が行われた為、その件についても全体の職員研修で説明を行いました。

## 6. 地域貢献

地域貢献・交流委員会が中心となり、引きこもりの方の社会復帰のための受入れやのんびり笑家跡地の活用について、関係機関とも調整を図りながら取組みを行っています。引きこもり社会復帰支援者の受入れについては現在1名の方を受け入れています。更に1名希望者がおられ、今後受入を行っていく予定です。

## II. 職員構成等

(平成30年3月31日現在)

事業所名	職種	員数
特別養護老人ホーム	施設長 施設長代理 生活相談員 特養部長 機能訓練指導員 看護職員 介護職員 管理栄養士 介護支援専門員	1名 1名 2名(内ショートステイ1名) 1名 2名(内パート1名) 5名(内パート1名) 47名(内パート4名) 1名 1名
デイサービスセンター	管理者 生活相談員 看護職員 機能訓練指導員 介護職員	1名(兼務 1名 生活相談員) 2名(兼務 2名 管理者又は介護職員) 2名(兼務 2名 機能訓練及び介護職員) 2名(兼務 2名 看護職員又は介護職員) 10名(兼務 2名 生活相談員又は介護職員) (内パート3名)
居宅介護支援事業所	ケアマネジャー	4名(兼務 1名管理者)
ケアハウス	管理者 生活相談員 介護職員	1名(特養施設長兼務) 1名 2名(内パート1名)
地域包括支援センター	主任介護支援専門員 看護師 社会福祉士 支援計画担当者	1名 1名 1名(管理者兼務) 2名
全事業所兼務	事務員	2名(全事業所共通)

在職職員の資格取得状況（取得者数は重複含む）

資格名	取得者数	所属別	
施設長	2名	特養 2	
看護師	6名	特養 3	在宅 3
准看護師	3名	特養 2	在宅 1
介護福祉士	62名	特養 47	在宅 15
社会福祉士	10名	特養 2	在宅 8
理学療法士	1名	特養 1	
作業療法士	1名	特養 1	
精神保健福祉士	2名	在宅 2	
介護支援専門員	15名	特養 4	在宅 11
主任介護支援専門員	2名	在宅 2	
社会福祉主事	21名	特養 15	在宅 6
管理栄養士	1名	特養 1	

### Ⅲ. 社会福祉法人スキーム福祉の会 理事会・評議員会 開催状況 (理事会)

開催日	出席者	主な議決事項
H29. 6. 9	理事 6名 監事 2名	平成 28 年度事業報告について 平成 28 年度収入支出決算について 理事・監事の選任候補者について 定時評議員会の日時・場所・議案等について
H29. 6. 26	理事 6名 監事 2名	理事長の互選について LED化工事の事業選定に関する理事長専決による随意契約について 従来型建物外壁塗装他改修の件入札参加指名業者の選定及び落札業者との工事請負契約の締結について
H29. 9. 21	理事 5名 監事 1名	給与規程別表の一部改定について 平成 29 年度収入支出第一次補正予算（案）について パート職員就業規則の一部改定について 経理規程の改定について 定款細則の改定について
H30. 1. 25	理事 6名 監事 2名	特養（従来型）運営規程一部変更について 特養（ユニット型）運営規程一部変更について 短期入所生活介護運営規程一部変更について デイサービスセンター運営規程一部変更について のんびり笑家の資産の繰入れについて 平成 29 年度第 2 次収入支出補正予算（案）について

		資金運用規程の制定について 監事・監査実施規程の全面改定について 定款（別表）基本財産明細の変更について のんびり笑家基本財産の処分について 評議員会の日時・場所・議案等について
H30. 3. 22	理事 6名 監事 2名	平成 29 年度収入支出補正予算（案）について 平成 30 年度事業計画（案）について 平成 30 年度収入支出予算（案）について デイサービスセンター運営規程の一部変更について 給与規程の一部変更について のんびり笑家土地・建物一部売却について 評議員会の日時・場所・議案等について

(評議員会)

開催日	出席者	主な議決事項
H29. 6. 26	評議員 7名	平成 28 年度事業報告について 平成 28 年度収入支出決算について 理事の選任について 監事の選任について
H29. 9. 29	評議員 7名	給与規程の一部変更について 平成 29 年度収入支出第一次補正予算（案）について パート職員就業規則の一部変更について 経理規程の改定について 定款細則の改定について
H30. 2. 2	評議員 6名	特養（従来型）運営規程一部変更について 特養（ユニット型）運営規程一部変更について 短期入所生活介護運営規程一部変更について デイサービスセンター運営規程一部変更について のんびり笑家の資産の繰入れについて 平成 29 年度第 2 次収入支出補正予算（案）について 定款（別表）基本財産明細の変更について のんびり笑家基本財産の処分について
H30. 3. 30	評議員 6名	平成 29 年度収入支出補正予算（案）について 平成 30 年度事業計画（案）について 平成 30 年度収入支出予算（案）について デイサービスセンター運営規程の一部変更について 給与規程の一部変更について のんびり笑家土地・建物一部売却について

#### IV. 事業所別報告

##### 1. 管理・運営部門

###### 1. 防災教育及び訓練

実施日	訓練内容	参加者
H29.10.17	夜間想定 通報、避難誘導、伝達訓練 防災監視盤・火災報知機の実施訓練	職員 11名 利用者
H30.3.6	昼間想定 通報、避難誘導、伝達訓練 防災監視盤・火災報知機の実施訓練	職員 34名 利用者
H30.3.13	土砂災害訓練 通報、避難誘導、伝達訓練	職員 30名 利用者

###### 2. 職員研修

###### ①施設内研修

研修月	研修名	出席者	講師等
4月21日	就業規則について（服務規則） 育児・介護休業について	49名 71%	竹下昌彦施設長代理
5月19日	心肺蘇生の実践研修	41名 56%	竹下昌彦施設長代理
6月	感染症対策研修	72名 80%	堺管理栄養士 看護師等
7月21日	ホスピタリティー 接遇研修	45名 66%	タイオン 365 志茂 隆行 氏
8月9日	認知症ケア研修 （認知症ケアの基本的知識）	72名 80%	上田特養部長等
9月16日	研究発表 1.排便コントロール ～自然排便を目指して～ 2.住み慣れた我が家でランチを ～家族の笑顔から得たもの～ 3.来た？きた！総合支援の波 ～うまく乗れるか不安じゃ～ 4.Re-creation ～生きていく元気を再び創りだす～ 5.私達が変わらなくっちゃ！ ～劇的ビフォーアフター～ 6.介護現場におけるリスクマネジメント ～書きたくなるビラハット報告書～	54名 80%	特養（エイト） 中家 特養（西） 森本・中村 ケアハウス 岡部・板野 特養（東） 森下・武田 デイサービス 守屋・小林 特養（事） 佐々木・西山

10月	褥瘡について	76名 91%	各ユニット職員
11月10日	口腔ケア研修	48名 71%	吉備路歯科医院長 清田 章之 氏
12月15日	感染症対策研修	53名 80%	堺管理栄養士 川上看護主任・笹部N s .
1月29日	腰痛予防（楽笑フィットネス）	46名 73%	運動タイムス 坂井 俊之 氏
2月16日	防災・交通安全研修	43名 76%	竹下昌彦施設長代理 青野貴氣生活相談員
3月30日	認知症サポーター研修	44名 75%	郷野沙矢香社会福祉士 檜村明子看護師

※施設内職員研修も定着し、平均出席率は 74.9%となっている。

## ②施設外研修

全国・岡山県老施協・岡山県社協や各種団体が開催する各種研修会へ年間 92 回、延べ参加人数 142 名が参加致しました。特に平成 29 年度は、制度改正に伴う研修や各種専門分野のスキルアップ研修に重点的に参加してまいりました。

## 2. 特別養護老人ホーム

お一人おひとりの暮らしの質の向上に努めるという目標のもと、平成 28 年度に続き「自立支援」「人材育成」「リスクマネジメント」の 3 点を処遇目標に掲げ「自立支援」ではトイレでの排泄、「人材育成」では勉強会の開催、「リスクマネジメント」ではヒヤリハット報告書の見直しに重点を置き、質の高いサービスを目指してきました。

また介護力向上勉強会も 3 年目を迎え、平成 29 年度は毎月開催し、副主任・リーダーだけでなく介護力向上勉強会のメンバーである職員が中心となり勉強会を実施し職員の資質向上に向けて取り組みました。

### 1. 自立支援

排泄に関しては布おしめから紙おしめへの移行を行いました。(株)ユニチャームによる実践的な指導、アドバイスを受けながら、おしめから紙パンツへの移行も進めトイレでの排泄を促してきました。また紙パンツや尿とりパッドもお一人おひとりに合ったものを選定することで年間 70 万円のコストの削減にも繋がりました。しかし、排泄の自立という点ではまだまだ多くの課題を抱えています。来年度も引き続き排泄ケアへのチャレンジを行ってきたいと考えています。

また、ユニット型特養では他職種で共同した援助が行えるよう、申し送りファイルを新たに作成し、より細かな情報共有が行えるようになりました。来年度は従来型特養でも使用し、個別的なサービスの提供に努めたいと思っています。

## 2. 人材育成

リーダー会議等を利用し、主任・副主任・リーダーの職務基準について周知徹底し、役割を確認してきました。その結果、役職者それぞれが、常に問題意識を持ち各ユニットごとにその時必要な勉強会を開催し、専門性の向上を図ることが出来ています。

また、新人職員の育成を苦手としている職員が多いため、今後はエルダー候補、リーダー候補の育成を行って参ります。

## 3. リスクマネジメント

今年度はヒヤリハット報告書の書式の変更に取り組みました。報告書を簡略化したことで、昨年度に比べ約4倍の数の報告が上がってきました。また改善策の必要なものとそうでないものに仕分けをした結果、些細なケースについても報告書が上げやすくなり、職員1人ひとりの意識が変わり細かな気づきを増やすこともできました。

感染症に関しては予防の強化に努めた結果、平成29年度の感染症の発生は0でした。

### 【生活相談・介護支援専門員】

1. 細やかなモニタリング、アセスメントによってご利用者のニーズを把握し、適切なケアマネジメントを行っていく。
  - ・個人ごとのケアプラン内容を一覧表にし、全職員が周知しやすい環境づくりを行うとともに実施内容を介護記録に反映することでモニタリングに活用出来るようにしました。また、実際にご利用者に関わることの多い介護職員から日々の状態について情報収集を行うことで、課題解決に向けてプラン内容が適正であるか随時確認を行っていくように努めました。
2. 相談員はご利用者、ご家族と施設間や、多職種間の連絡調整役を担うことでご利用者を取り巻くすべての人で支えていける体制づくりをする。
  - ・家族懇談会において今年度は外出支援についてと看取りケアについての意見交換を行いました。看取りケアについてご家族が抱える不安や疑問にお答えすることで、現状当施設で行っている看取りケアについてご理解をいただくとともに、ご利用者の安らかな最期を迎えて頂くためには施設側だけではなく、ご家族の協力も必要であることをお伝えしていきました。
3. 定期的な待機者調査を行うとともに、入所希望者の状況把握をすることでスムーズな入退所業務を行い、稼働率向上に努める。
  - ・入所希望者の事前面談を順次行っていき、日頃の状態、本人、家族の意向を把握することで入所時から適正なサービスが提供出来るよう情報収集に努めました。また、入所者の状態について、多職種連携し、把握することで退所時の空床期間の軽減に努め、安定した稼働率の確保を行って参りました。



## 【看護】

1. 他職種連携による情報共有はパソコンやノートなどの活用で図れています。研修については、施設内研修には参加していますが、施設外の研修に参加する機会が少なかったため、来年度は施設外研修への参加を促して参りたいと思います。
2. 「介護職員等の喀痰吸引」の資格取得に必要な実地研修を行う事が出来ました。6名の介護職員が研修を終了し申請を行いました。
3. インフルエンザ・ノロウイルスの研修を行いました。また現場で実践していくことで感染症の発生及び二次感染を未然に防ぐことが出来ました。

## 【介護】

1. 認知症介護実践研修、指導技術研修、看取り研修等、施設内外の研修に多数の参加を促し、専門性を深めると共に研修内容を報告することで伝えることの難しさを知り、研修内容を再確認していくことが出来ました。
2. 気付いたこと、自ら考えたことについて「なぜ、そう思ったのか。」「なぜ、そう考えたのか。」を伝えることが出来る職員の育成に努めました。またその内容を職員間で協議し、援助することで、根拠に基づいた介護の実践に努めました。

## 【機能訓練】

1. ご入居者とそのご家族のニーズを尊重した機能訓練を実施する。  
ご入居者とご家族の要望を積極的に訓練計画に取り入れ、訓練目標を明確化しました。ただし、ご入居者との意思疎通が困難な場合やご家族からの要望が確認出来ない方に関しては、目標も曖昧になりやすく、カンファレンスを通し職員が立案した訓練目標となってしまいました。
2. 体操、制作活動等のレクリエーションを実施し、活動性の維持・向上を図る。  
新たに継続的に取り組める活動として園芸活動を取り入れました。園芸活動は回想法にも繋がり、利用者から職員が学ばせて頂くといった新たな姿勢も作られました。全てのレクリエーションが定期的で開催された訳ではありませんが、園芸活動は生き物が主体という事もあり随時開催、参加者の活動性の維持・向上につながりました。
3. 理学療法士・作業療法士の視点から、リハビリテーションの知識・技術について研修を行い、褥瘡・拘縮予防としてのポジショニング調整の仕方、ベッド上での体転時や車椅子座位姿勢などの注意点などを他職種に伝達し、相談にも都度対応しました。多くの疑問が寄せられた内容は会議の中で勉強会の時間を設け、職員が共通理解のもと実践できるよう指導しました。

## 【栄養】

1. ご利用者の体調や身体状況に合わせた迅速、柔軟な個別対応を行う。  
看取りの方の食事など他職種、ご家族の意見を聞きながら個別に対応出来ました。
  2. ご利用者の嗜好を考慮した季節感のある行事食の提供を行う。  
年間行事計画を立案し、好まれるイベントを実施しました。ただ、総社市の食材で地産地消を取り入れることが出来なかった。
  3. 参加型のイベントの機会を増やす。  
各ユニットで実施することが多いが、厨房職員が実施するそば打ちやにぎり寿司を見ながら食事が出来るイベントを実施しました。
  4. 嚥下困難な方への食事への理解のため、職員の試食会・研修を行う。  
給食委員会やユニット会議で実施し、当施設での食事形態などを把握して頂きました。
5. 防災対策
- 防災委員を選出し、避難訓練に参加するだけでなく事前準備、反省会に参加することで防災に対する意識を再認識することが出来ました。また、特養だけでなく他部署の訓練に参加することで、気付きや知識を深めることが出来ました。

## 行事

開催月	行事名	実施内容
4月	お花見会	家族懇談会・「吉備路伝説を語る会」による催し・食事会
8月	特養夏祭り	特養入居者に限定した夏祭りを開催 模擬店
9月	敬老会	式典（米寿6名）・「竹のオーケストラ」による催し・記念撮影
10月	グリリバふれあい祭	地域の方を招いての模擬店・くじ引き抽選会 「ピエロのトッポ」による余興
12月	クリスマス会	職員によるハンドベル・食事会

## 苦情状況

発生日	内容	対応
4月1日 (従来型)	・受診時、なぜ看護師がいないのか？ ・状態がわからないのに問診票も書けない。	看護師間での情報共有が不十分であり、ご迷惑をおかけしたことを謝罪した。今後、ご家族の方に病院受診をお願いする場合は、受診内容について情報提供の書面をお渡しすることとした。

<p>5月2日 (ショートステイ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ショート利用中、中庭で喫煙中に2階の窓から「男の人かな？女の人かな？」という声が聞こえた。</li> <li>・トイレの高さが低く、痔が悪化した。</li> </ul>	<p>2階からは相手に聞こえていないだろうという思い込みもあり職員同士で会話をしてしまった。今回に限らず、職員同士の会話についてはどこで誰に聞かれているのか分からないため、軽い気持ちで会話しないこと、寮母室での会話は中庭へよく聞こえていることなどを確認しあった。相談員から謝罪すると共に環境面の改善については検討すると伝えた。</p>
<p>5月4日 (ショートステイ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅へ訪問を行った際、家人より「右足の第2・3指の第2関節に怪我があり、浸出液が出てかなり化膿している。持病に糖尿病があり、気を付けて欲しかった。」と言われる。</li> </ul>	<p>4月30日に退所されており28日が最終入浴日であった。28日には傷が見受けられなかった。日常動作自立の利用者の為、臥床時等に介助は行っていない。5月1日～3日は同法人のデイサービスを利用されているが、(入浴なし)足取り等に変化は見受けられなかった。いつ出来た傷か詳細がわからないことを介護支援専門員へ報告し謝罪を行った。</p>
<p>8月7日 (ショートステイ)</p>	<p>夜勤職員の対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄介助時に無言で介助を行われた。</li> <li>・麻痺側を雑に扱われた。</li> <li>・コールを押しても「私は管轄外です。」との返答があった。不愉快であり納得もできない。</li> </ul>	<p>苦情のあった職員に確認をとったが、「対応には気を付けています。」とのことであった。夜勤中の事だけでなく、日中の対応についても職員間で統一したケアをするよう確認を行い、ご家族には謝罪し受け入れて頂いた。</p>
<p>9月16日 (ショートステイ)</p>	<p>持参した薬が服用できていない。全て服用させてください。</p>	<p>準備した看護職員の思い込みによる勘違いから起こったものである。今後同じ間違いが起らないように十分注意することをお伝えし、謝罪をした。 ご家族の方も全ての薬をジップロックに小分けして下さるとのことでお礼を伝えた。</p>
<p>12月11日 (従来型)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポータブルトイレに尿が入ったままになっており、いつ捨てるのか？</li> <li>・対応や口調の荒い人がいると聞いた。「あんたにばかり時間をかけられない。」と言われた。</li> </ul>	<p>ポータブルトイレについては夜間のみ使用しており、朝に捨てるのを忘れていた事を謝罪した。言葉づかいに関しては悪気はなかったようであるが「注意していきます。」とお伝えした。</p>

※参考資料

(1) 入居利用者の実態

①介護度及び保険者（平成30年3月31日現在）

要介護度		1	2	3	4	5	計
総社市	男	0	0	2	9	9	20
	女	0	3	11	16	15	45
	小計	0	3	13	25	24	65
岡山市	男	0	0	0	0	1	1
	女	0	0	0	1	2	3
	小計	0	0	0	1	3	4
倉敷市	男	0	0	1	0	1	2
	女	0	0	1	1	3	5
	小計	0	0	2	1	4	7
高梁市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	1	1	2
	小計	0	0	0	1	1	2
真庭市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	1	1
	小計	0	0	0	0	1	1
井原市	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0
	小計	0	0	0	0	0	0
吉備中央町	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	1	0	0	0	1
	小計	0	1	0	0	0	1
計	男	0	0	3	9	11	23
	女	0	4	12	19	22	57
合計		0	4	15	28	33	80

②年齢構成（最高年齢：107歳、最少年齢：61歳、平均年齢：87歳）

	～64	65～ 69	70～ 74	75～ 79	80～ 84	85～ 89	90～ 94	95～ 99	100～	計
男性	0	1	3	4	6	4	4	0	0	22
女性	1	0	0	4	7	20	14	10	2	58
合計	1	1	3	8	13	24	18	10	2	80

③年間の入退所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	5	1	3	3	1	0	0	2	4	1	1	2
退所	3	0	4	2	1	0	1	1	4	1	1	3

④退所理由

長期入院	他施設入所	在宅復帰	死去	(死去の内、施設内での看取り)
3名	0名	0名	18名	(11名)

(2) 稼働状況 (稼働率：%)

従来型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延べ利用者数	1487	1544	1453	1495	1548	1485	1539	1497	1491	1492	1307	1415	1479
ベッド稼働率	99.1 (95.5)	99.6 (95.5)	96.9 (95.7)	96.5 (96.6)	99.9 (96.7)	99.0 (92.5)	99.3 (90.3)	99.8 (92.8)	96.2 (91.7)	96.3 (93.9)	93.4 (94.4)	91.3 (94.2)	97.3 (94.6)

( ) 内は平成28年度

ユニット型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延べ利用者数	887	892	854	900	911	898	902	836	884	911	840	896	884
ベッド稼働率	98.6 (94.7)	95.9 (97.7)	94.9 (99.2)	96.8 (99.7)	98.0 (96.6)	99.8 (95.4)	97.0 (96.9)	92.9 (93.0)	95.1 (94.5)	98.0 (99.1)	100 (99.9)	96.3 (96.2)	96.9 (96.8)

( ) 内は平成28年度

(3) ショートステイ稼働状況 (稼働率：%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延べ利用者数	508	541	531	538	508	546	543	537	551	544	499	539	532
ベッド稼働率	84.7 (87.7)	87.3 (82.4)	88.5 (85.5)	86.8 (85.8)	81.9 (84.7)	91.0 (75.0)	87.6 (73.1)	89.5 (81.0)	88.9 (83.1)	87.7 (68.5)	89.1 (87.0)	86.9 (81.3)	87.5 (81.2)

( ) 内は平成28年度

(4) 待機者の状況

保険者	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
総社市	2	5	27	28	21	83
倉敷市	0	1	4	4	2	11
岡山市	0	0	1	0	0	1

高梁市	0	0	0	0	0	0
新見市	1	0	0	0	0	1
井原市	0	0	0	0	0	0
真庭市	1	2	0	0	0	3
矢掛町	0	0	0	0	0	0
浅口市	0	0	0	0	0	0
津山市	0	0	0	0	0	0
吉備中央町	0	1	0	0	0	1
その他	0	0	2	0	0	2
合計	4	9	3 4	3 2	2 3	1 0 2

月	行事食	月	行事食
4月	お花見会	10月	グリリバふれあい祭り
5月	わたがし作り	11月	そば打ち実演
6月	むらすずめ作り	12月	クリスマス会
7月	七夕 そうめん流し	1月	お正月料理 餅つき大会
8月	夏祭り かき氷 焼きそば	2月	節分 にぎり寿司
9月	敬老会	3月	にぎり寿司 雛祭り

### 3、G&Rデイサービスセンター

自立支援や個別支援に力を入れ、身体面・認知症面で重度な方へ充実したサービス提供が行えるよう努めて参りました。併せて、常に根拠を求める事、そして職員一人ひとりが自分で考え、実践できる職場風土作りにも力をいれて参りました。これまでと比較し、少しずつではありますが、着実に進んできているように思われます。結果としてコンスタントに新規利用者の引き合いも受ける事が出来ました。しかし、日常生活支援総合事業が開始となり、要支援者の利用が半数にまで減少したこと、また複数回利用者の相次ぐ入院及び利用終了が重なった事もあり、稼働率としては76.4%と前年度を下回る結果となりました。

#### 1. 個別・自立支援に向けたケアの実践

ご利用者の行動はご本人にとって意味のある行動であり、ご利用者の行動を「見守る事」、そして危険が伴わない限り「ご利用者の行動を妨げない事」を職員間で徹底しました。また、ご利用者の生活の場が自宅である事を念頭に置き、「毎日の自宅での動作・行動を継続して行うことが出来るようにする為には」という視点を持ち、取り組みを行いました。「しすぎない介護」を徹底した結果、職員がご利用者の動作を待つ場面が少しずつ見られるようになりました。併せて在宅での動作を想定し、下肢筋力や嚥下機能等、身体機能の維持・向上に

重点を置いた機能訓練を実施し、少しではありますがこれまでに比べて歩行時に足を挙げて歩くご利用者の姿を見ることが出来る様になっています。今後も継続していきたいと考えています。

## 2. 認知症利用者に対するケア

ご利用者へ提供するサービスに関して「根拠」を常に提示し、職員間で共有することで個別的なサービス提供の実施に努めました。併せて、その日の状況のみで判断するのではなく、継続して様子観察する事、観察するポイントやどこに視点を置くか等についても、反省会等を通して職員間で周知・徹底した結果、場渡り的な一時の対応ではなく根拠の確立や標準的ケアの提供を行うことが出来るようになってきました。また、認知症による残存機能の低下が見られる方に対し、「出来ない人」として捉えるのではなく、その方の可能性を見出す事に関して職員間で徹底したところ、提供するアクティビティが多様化し、職員からの報告からご利用者の残存していた動作機能を新たに発見することが増え、「出来るところがある」というプラスの視点でご利用者を捉える習慣がつきつつあります。

## 3. 利用者情報の共有と望まれるサービスの実践

ご家族やケアマネジャーから得たご利用者に関する情報を、反省会や日課帳を通し職員間での共有を徹底しました。気付きや検討事項については、その都度職員間で協議し、併せて「なぜそうするのか」という根拠を持ち考える場を積極的に設け、現場業務へ反映させた結果、「根拠のある標準的介護」の提供が統一して出来る様になりました。

## 4. 経営の安定に向けた取り組み

毎月、居宅介護支援事業所へ訪問し、情報提供及び関係構築に努めました。また奇数月にはデイサービス独自の新聞を発行し、月途中で訪問する事で引き合いのない居宅介護支援事業所へ訪問しPRに取り組んだところ、新しい居宅からは1件、今まで依頼を受けたことのないケアマネジャーからの新規依頼が複数件ありました。微々たるものではありませんが、小さなことの積み重ねの結果だと考えます。今後も継続して取り組んでいきたいと思えます。また、認知症ケアを特色に出来るよう、勉強会の定期開催を開始しました。各職員のスキルアップ・意識向上を図り、今後営業の目玉とできるよう継続して行って参ります。平成30年度は、中重度者ケア体制加算の算定要件を満たさなくなり、来年度より算定中止となる事が2月に確定しましたので、新たに算定出来る加算を模索し、出来る限りの収入獲得に努めて参ります。

## 5. 防災対策

施設全体で行われる土砂災害を想定した避難訓練及び火災を想定した避難訓練に参加しました。訓練の為の訓練ではなく、実際に起こった場合を想定した訓練と位置づけ、スムーズに訓練を終えることが出来ました。

## 行事

開催月	行事名	実施内容
4月	懐かしの我が家のちらし寿司作り	ちらし寿司を作って食べる
5月	国分寺へGO	国分寺へ散策
6月	プチ茶会 in グリーンデイ	抹茶とむらすずめを食す
7月	耳をすませば	風鈴作り
8月	夏バテなんてふっとばせ	そうめん流し
9月	あの頃の思い出をバイソグ	懐かしいお菓子のバイキング
10月	参観日	ご家族に来所して頂き懇談会
11月	うどんパーティ	うどんを作り食す
12月	餅つき大会	餅をついて食べる
1月	同じ阿呆なら踊らにゃ損々	民舞ひばり会の演目鑑賞
2月	鬼は外。福は内。	恵方巻きを作り食す。豆まき。
3月	華じゃ！酒じゃ！宴会じゃ！	お花見

## 苦情状況

発生日	内容	対応
なし	なし	なし

## 4、居宅介護支援事業所

職員の退職や人事異動により、3名中2名の職員が新たに着任となり、新しい価値観や経験値、知識等が部署内に発信されました。ケアマネジャーは一人で業務を行う職種であることもあり、これまでは協働や全体での意識統一を行うことがあまりなかったのですが、組織としての意識統一や協働しての取り組みを始めたことで風通しがよくなり、職場風土改革の一步を踏み出すことが出来た1年でした。また、出来るだけの介護保険収入確保を目指し、各ケアマネジャーが給付管理件数35件強を維持する意識を持ち、取り組むことが出来ました。

### 1. サービスの質の向上

月に1度のミーティングで、新しい社会資源や、各事業所の特色や空き状況、介護保険制度の動向等個人が獲得した情報を提供し合い、随時新しい情報を更新共有することに努めました。また、各種研修に積極的に参加し、専門的知識の取得に努めました。特に今年度はケアマネジャーの倫理感についての認識に力を入れ、対人援助力の向上に努めました。

### 2. 組織の活性化

月に1回ミーティング実施を開始。事業所としての方針や、倫理面についてのディスカッションを通じて意識統一と新しい社会資源の情報や介護保険制度の動向について情報共有を行うことが出来ました。また、単独のケアマネジャーが集まって業務を行いさえすればよい場所ではな



く、「組織であり同じ方向を向いて成果を上げる事を目的とした集団である」ということの意識統一を行うことが出来ました。

### 3. 人材の育成

今年度は法定研修を2名が受講。その他、岡山県介護支援専門員協会が提供する各種研修に出来るだけ参加し、専門性の向上に努めました。また、2名のケアマネジャー着任に伴い、業務の指導や意見交換を行い、短い時間で戦力となるよう指導・教育を行いました。

### 4. リスクマネジメント

業務の特性として、ご利用者のかなり詳しい個人情報に携わる為、相手の心情や、相手とケアマネジャーである自分との距離を意識しながら情報収集を行うことや、「利用者主体」に立ち戻り、ご利用者・ご家族の意向を尊重したアセスメントやプランニングに努めることに重点を当て、ミーティングを活用して意識統一をしました。また、ケアマネジャーの業務や役割、専門職としてすべきこと、するべきでないことの認識について指導を行い、周知徹底したところケアマネジャー個人の言動に対するクレーム・苦情は0件という結果を得られました。

### 5. 法令遵守

減算事項や必要な届出の速やかな提出を常に確認しながら、毎日の業務に取り組み、法令に反することなく業務実施できました。

#### 苦情状況

発生日	内容	対応
4月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現ケアマネジャーを信用できないので交代させてほしい。</li> <li>・情報提供したものを回収し、現物確認した後シュレッダー廃棄してほしい。</li> </ul>	当該担当ケアマネジャーに厳重に注意・指導を行い、速やかにケアマネジャーの交代の手続きを行った。また、交代するケアマネジャーと管理者が初回同行訪問し、今後の在宅生活を穏やかに送ることが出来るよう対応する旨を伝えた。
7月28日	・デイサービス送迎時、車椅子への移乗の際に訪問してきたケアマネジャーさんが横に立っているだけで全く手伝ってくれなかった。職員の教育が出来ていないのではないか。	妻の軽介助で動作はゆっくりだが自立されていたため、特に手は出さなかった。対応について謝罪をし、「手伝いましょうか？」との声をかけるようにさせて頂くことで一応の納得をして頂いた。
10月21日	前任のケアマネジャーに対して <ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴に関して家族、デイ事業所からの意見を聞き入れてもらえない。</li> </ul>	本人、家族の思いを尊重せず、身体のみで判断し気持ちに寄り添わなかった。また、本人のことをきちんと

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用日に関しても聞き入れられず変更しようとしていた。</li> <li>との苦情あり。</li> </ul>	<p>と理解・確認している事業所からの情報も聞き入れずケアマネジャー本位のプランを作成してしまった。今後、このような事が起こらないよう対応させて頂くようお伝えし、どんな些細なことでも不安があれば対応させて頂くことを伝えた。</p>
10月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族が旅行する為、早めに担当ケアマネジャーへショート利用日について伝えていたが、予約が出来ていなかった為、家族は旅行へ参加することが出来なかった。また、謝罪の言葉も無かった為、家族が立腹された。</li> </ul>	<p>ショート利用日の3か月前より早い予約であったため、予約が出来ていなかった。今後はメモを残し、支援経過にも記すこととする。今後の対応についてお伝えし謝罪した。</p>

## 6. ケアハウス

昨年度は4月に夫婦部屋のひとつを個室2部屋に改装し、入居希望者のニーズに沿ったものに変えることが出来ました。また、ご入居者の入れ替わりが多く8割近くが要支援認定者で占められるようになりました。一見、元気な方が増えたように思えますが、場面ごとに助言や一部介助が必要な方が多く、併せて要支援は介護保険サービスの在宅サービス利用が困難という制度上の制約もある為、職員による入浴の見守りや介護予防への取り組みを開始しました。自立支援を促す一方でご入居者の安心・安全な生活を実現させるためサポートをせざるを得ない状況となった一年でした。

### 1. 個別・自立支援に向けて

- ・個々の日常生活動作や心身機能を早めに見極め、関係者との調整を行い、介護保険サービスという手段を使って自立した生活をコーディネートしたことで、ご本人やご家族の安心につなげることができました。その反面、ケアハウスだからこそ頑張っで自分でやろうとされた結果、ご本人の無理が痛みや怪我になったのではと懸念される点もあり、職員にとっては自立を尊重・促進する上で尚且つ安心・安全な生活の確保が新たな課題となりました。

### 2. 認知症対策

- ・年間行事に加え、毎週百歳体操とレクリエーションを実施しました。曲に合わせたり、棒を使った体操にも挑戦してみましたが、耳の不自由な方がリズムをとるといことの困難さを実感しました。どのような心身状況の方にも取り組んで頂けるようなメニューの考案が今後の課題です。
- ・制度改正の為、デイサービスが利用できなくなった方のリクエストでカラオケも実施しました。他の方も、歌わなくとも懐かしいメロディーに思わず口ずさむ方もいらっしゃいました。
- ・季節に応じた畑作業や手先を使った壁面飾りの創作に取り組み、よい作品が出来ています。

### 3. 生きがいくくり

- ・昨年度においては『食』をテーマに取り組み、今まで実施したことがなかった中華バイキング、しゃぶしゃぶ、すき焼き、フルーツバイキング等を計画し、ご好評を頂きました。また、毎月提供した「刺身」については通常の食事では提供されないことがない為、大変喜ばれていました。
- ・買い物を楽しみにされている方もおられ月に3～4回に増やしたところ、出費がかさむという意見があり、今後の課題となりました。

#### 4. 安全対策

- ・共有部分については、不具合箇所の発見ごとに迅速に対処し、環境改善を行うことが出来ました。
- ・感染症については、入居者に向けての講習会の開催や、食堂にチラシを掲示することで周知し、各自、理解・注意して頂き、発症・蔓延することなく1年間過ごすことができました。

#### 5. 防災対策

- ・ご入居者に向けては勉強会を実施、質疑応答を和やかな雰囲気で行い、職員及び参加ご入居者皆で考えることで意識喚起することが出来たと思います。
- ・年3回の避難訓練後、反省会を行いました。ご入居者自らが夜間を想定した質問される等、各人が実際の避難をイメージし、現実的発想を促すことが出来た良い機会となりました。

#### ①要介護度及び出身地

	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
総社市	2	3	5	1	2	0	0	0	13
高梁市	0	0	1	0	0	0	0	0	1
岡山市	0	0	1	0	0	0	0	0	1

#### ②年齢構成（最高年齢：96歳、最少年齢：74歳、平均年齢：85.9歳）

性別	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	合計
男性	0	0	0	1	1	0	1	3
女性	0	0	1	2	2	4	3	12

#### ③在籍年数（平均3年1か月）

年数	1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上～ 8年未満	8年以上～ 10年未満	10年以上
人数	6	3	2	1	3	0

#### ④入退居状況

退居者数4名（長期入院：1名、他施設入所：2名）

入居者数6名（4月は工事の為 2名減）

懇談会開催状況

開催日	懇談内容	出席者数	出席職員
6月23日	食中毒・熱中症について	12	5
9月27日	認知症予防について	9	5
12月13日	塩分・インフルについて	12	5
3月14日	防災について	12	5

#### 行事活動実施状況

実施月	実施内容
4月	外食（きびきび亭）、おやつ作り（パンケーキ）、懇談会
5月	えんどう収穫、バーベキュー、
6月	健康診断、芋の苗植え、外食（たね井や）、おやつ作り（大福）
7月	中華バイキング、おやつ作り（かき氷）
8月	そうめん流し、うな重、フルーツバイキング
9月	さんまの炭火焼き、懇談会
10月	握りずし、避難訓練、グリリバふれあい祭
11月	吊るし柿、花の苗植え、芋ほり、すき焼き、紅葉見学（宝福寺）、外食（金亀）
12月	クリスマス会、忘年会（鍋料理）、懇談会、正月用お飾り作り
1月	餅つき、新年会（しゃぶしゃぶ）、初詣（高松稲荷）、外食（前田料理店）
2月	手巻き寿司、和菓子バイキング
3月	避難訓練、おやつ作り（ぼた餅）、外食（かもがた茶屋）、懇談会

※レクリエーション：週1回、百歳体操：週1回、買い物：月3～4回、特養の行事に参加：随時

## 7. 地域包括支援センター

平成29年度からの活動としてSOS声掛け訓練を行いました。常盤地区を1時間程度、認知症役の人と一緒に歩き、認知症の人への声掛けの仕方や、認知症を知ってもらうためにパンフレットを渡しての啓発活動を地域ぐるみで行いました。実際に声をかけるのは難しいとの声がありましたが、歩いている人も積極的に声掛けしていました。認知症になっても地域で安心して暮らせるようにと今後も行っていきます。

また、小学生にも認知症を知ってもらうための認知症サポーター養成講座を開催しました。小学校から4年生を対象としての要望があり、劇を交えて認知症という病気を知ってもらい、3つのない「怒らない」「急がせない」「心を傷つけない」を伝えました。小学生の感想では「優しく声を掛けていきたい」や、「おばあちゃんの手助けをしたい」等しっかり考えての発言が多くありました。

### 1. 個別ケア会議

平成29年4月から「介護予防・日常生活支援総合事業」の開始にあたり、要支援1、2の方の更新時に、リハビリテーション専門職を交えて市・利用事業所・地域包括支援セ

ンターが集まりその方の状況や状態を話し合い、どのようなサービスが良いのか、総合支援事業で日常生活が送れる方・現行相当のサービスが必要な方の話しを行いました。毎月2回、約10ケースずつ開催し、多職種が協働して個別ケースの支援内容を検討することで、高齢者の自立支援に向けたケアマネジメントを実施し、対象者の課題解決や自立支援の促進、生活の質の向上を目指しています。

## 2.小地域ケア会議

清音地区では毎月開催し今年度は見守りについての話しを行いました。それを地域住民に知って頂くためにチラシを作成しました。1枚目は高齢者の見守り活動を行っていること・相談事は地域包括に連絡をすること、2枚目は小地域ケア会議で地域課題について話を行っていることを入れています。民生委員よりチラシ配布の際、店の方から気になる方がいるとの情報があり、地域包括が関わり始めた方もおられます。

## 3. 認知症カフェ

2カ月に1回介護予防拠点施設のさんあいの家・ひだまりの家・やすらぎの家で開催しています。また地域の方の要望があり清音福祉センターでも1度開催しました。毎回10名以上の方の参加があり回想法を主として、昔を懐かしみ楽しく話しをしながら過ごせる居場所となっています。また介護保険制度の話や相談事もその都度対応しています。

### 苦情状況

発生日	内容	対応
なし	なし	なし